

モモの収穫前管理

県北農林事務所伊達農業普及所
JAふくしま未来伊達地区モモ生産部会

**凍霜害で着果数が不足している園では、被害程度が軽い変形果など残せる果実をしっかり見極めて、修正摘果を実施しましょう！
せん孔細菌病の二次感染を防ぐために、罹病部位の除去を徹底しましょう！**

1 気象経過

- 5月は気温が平年よりやや高く推移し、降水量は平年よりやや少なく推移した。
- 平年値が10年ぶりに更新され（統計期間1991～2020年）、アメダス（梁川）においては、5、6月の平均気温が約0.5～0.6度高くなり、月の合計降水量が約6mm少なくなった。

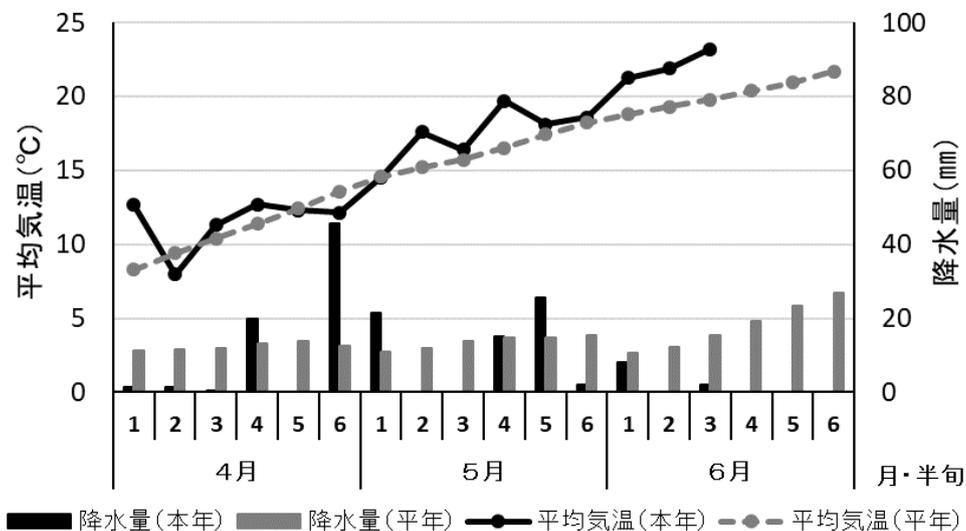


図1 平均気温と降水量の推移（観測地点：伊達市梁川町）

2 生育概況

(1) 開花状況及び果実肥大状況

桑折町伊達崎の調査ほ場における「あかつき」の6月1日現在の果実肥大は、縦径が44.5mmで平年比127%、側径が39.9mmで平年比145%となっており、暦日比較では平年より大きい。満開後日数比較では、縦径96%と平年並、側径109%と平年よりやや大きい。

表1 「あかつき」の開花状況（桑折町伊達崎）

開花始め			満開		
本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
3月30日	4月13日	4月2日	4月5日	4月19日	4月9日

表2 「あかつき」の果実肥大状況（桑折町伊達崎、6月1日現在）

本年		平年		平年比（暦日比較）	
縦径 mm	側径 mm	縦径 mm	側径 mm	縦径%	側径%
44.5	39.9	35.1	27.6	127	145

(3) 新梢伸長状況

農業総合センター果樹研究所における「あかつき」の満開後60日（6月3日）の新梢長は平年比56%と短く、新梢停止率は46.7%で平年よりやや低い状況である。

表3 「あかつき」の新梢生育状況（満開後60日、農業総合センター果樹研究所）

新梢長 (cm)			新梢停止率 (%)	
本年	平年	平年比	本年	平年
6.7	11.9	56	46.7	55.6

(4) 核障害

農業総合センター果樹研究所における「あかつき」の満開後60日（6月3日）の核頂部亀裂は、65%であり平年よりやや多い。

(5) 硬核開始日

農業総合センター果樹研究所における「あかつき」の硬核期開始日は、5月31日で平年より9日早かった。

表4 「あかつき」の硬核開始日（農業総合センター果樹研究所）

硬核開始日 (確定)		
本年	平年	平年差
5月31日	6月9日	9日早い

3 今後の管理作業

凍霜害により既に最終着果量を下回っている樹では、混み合っている果実、病害果、裂果している果実、変色している果実(写真1)を中心に摘果し、程度の軽い変形果・縫合線が深い果実等はできるだけ残してください。

(1) 修正摘果

6月下旬以降（硬核期終了後）になると、核障害に起因する変形果や成熟異常な果実、極端に肥大が進んだ果実が徐々にはっきりしてくるので、数回に分けて修正摘果を実施する。

下記の果実は、核や胚に障害があることが多く摘果対象となるが、今年は凍霜害により着果量が少ないため、新梢の伸長状況など樹勢を考慮して最終着果量を決定する。

- ・ 果頂部が変形している果実
- ・ 縫合線が深い果実
- ・ 果面からヤニが噴出している果実
- ・ 果皮が変色している果実
- ・ 果頂部の着色が早い果実、等



写真1 果皮が変色している果実

(2) 夏季せん定（凍霜被害により強勢化している園地）

原則、硬核期終了後に実施する。薬液の透過性の改善や樹勢のコントロール、反射シートに光が届くよう、樹冠内部を中心に主枝、亜主枝の背面や大型側枝の基部から発生した旺盛な徒長枝を、修正摘果に合わせて成葉4～5枚残してせん除する。

樹冠上部、特に主枝・亜主枝先端部付近は着果数を多く配置しているため、衰弱しないように発育枝を多めに確保する。

(3) 着色管理

今後果実が肥大してくるので、枝折れを防ぐために適宜枝吊りや支柱立てを行ってください。

枝吊り・支柱立ては収穫前14日頃までに実施する。今年は、上枝を中心に着果が偏っている樹が多くあることから、枝折れ防止のために適宜枝吊りや支柱立てを行う。

反射シート（シルバーシート）は収穫前7～10日頃までに敷設する。ただし、パールライト等白系の反射資材は収穫前14日頃までに敷設する。

近年、収穫時期の気温が高い年が続いており、日焼け果が懸念される園地については、白系の反射資材の導入、枝との距離が近い箇所に反射率が低下した使用感のある反射シートを敷設する等の対策を行う。

(4) 有袋栽培の管理

除袋の時期は、果面の地色にやや緑色が残る時期が適期である。なお、紙製着色袋（SK-2等）では収穫前10日頃、二重袋（ぱりっと撥水ミニ等）の外袋除袋は収穫前14日頃が目安となる。除袋前に試しむきを行い果実の成熟度を確認してから、本格的な除袋作業に入る。

4 病害虫防除

(1) 病害対策

ア モモせん孔細菌病

梅雨期に入り降水量が多くなると、二次感染により発病が増加するおそれがあるため、り病部位の除去と薬剤散布を引き続き徹底する。

イ 灰星病、ホモプシス腐敗病

収穫直前は、灰星病、ホモプシス腐敗病等の防除適期となるため、薬剤散布を徹底するとともに、灰星病の被害果は二次伝染源となるため、適宜園地の外に持ち出し処分する。

(2) 害虫対策

ア カメムシ類

山間及び山沿いのモモ園では、カメムシ類の飛び込みに注意し、園地で複数の個体が見られた場合は速やかに防除を行う。

イ ナシヒメシンクイ

ここ数年、8月下旬に新たな発生世代が確認されていることから、例年新梢の芯折れなど被害が多発している園地では、防除を行う。

(3) 直近の防除暦について

農薬散布に当たっては、JAの果樹病害虫防除暦を参考に、最新の農薬登録情報を確認のうえ行う。また、この期間は収穫直前となるため、収穫前日数に注意して散布する（表5）。

※表5の注意点

- 表5の農薬使用法は令和3年6月7日現在の農薬登録内容に基づき記載した。
- 散布回数の記載はJAの令和3年版果樹病害虫防除暦に準じた。
- 展着剤は適宜加用する。
- その他の注意点はJAの令和3年版果樹病害虫防除暦に従う。

表5 薬剤散布時期（第10回～第12回）の目安（「あかつき」の満開が4月5日の場合）

散布回数	散布時期	主な対象病害虫	早生種		中生種		晩生種		備考欄
			使用薬剤	濃度	使用薬剤	濃度	使用薬剤	濃度	
第10回	6月21日頃	せん孔細菌病	—	—	バリダシン液剤5	500倍	バリダシン液剤5	500倍	※1
		灰星病、黒星病 ホモブシス腐敗病	オンリーワンフロアブル	2,000倍	ダコレート水和剤	1,000倍	ダコレート水和剤	1,000倍	
		果実赤点病	—	—	—	—	—	—	
		シンクイムシ類 カメムシ類	テッパン液剤	2,000倍	テッパン液剤	2,000倍	テッパン液剤	2,000倍	
第11回	7月1日	せん孔細菌病	—	—	—	—	スターナ水和剤	1,000倍	※2
		灰星病、黒星病 ホモブシス腐敗病	ベルコート水和剤	1,000倍	ベルコート水和剤	1,000倍	ベルコート水和剤	1,000倍	※3
		果実赤点病							※4
		アザミウマ類	—	—	ディアナWDG	10,000倍	—	—	※5
第12回	7月11日	灰星病、黒星病	—	—	ナリアWDG	2,000倍	ナリアWDG	2,000倍	※6
		ホモブシス腐敗病							※7
		果実赤点病							※8

備考欄の記載内容	第10回	※1	早生種では、バリダシン液剤5を散布しない。
	第11回	※2	シンクイムシ類、アザミウマ類など害虫の発生が多い園では、「アーデント水和剤 1,000倍」を散布する。
		※3	収穫期間中に雨が長く、灰星病が多発する恐れがある園では、「インダーフロアブル 5,000倍」を追加散布する。
		※4	晩生種・極晩生種の単独園ではスターナ水和剤に替えて「デランフロアブル 600倍」を散布する。
	特散	※5	中生種でアザミウマ類の発生が多い園で、散布する。
	第12回	※6	西洋ナシ、ブドウの品種の中には薬害が生じる恐れがあることから、西洋ナシ、ブドウ園の隣接園では、ナリアWDGが周囲に飛散しないように注意する。
		※7	シンクイムシ類など害虫の発生が多い園は、「ダイアジノン水和剤34 1,000倍」を散布する。
		※8	ハダニ類の発生が多い園では、「ダニゲッターフロアブル 2,000倍」を散布する。 ただし、開花期の水稻にかかると薬害が生じる恐れがあるため、飛散しないように注意する。

令和3年産「あかつき」の収穫前管理作業スケジュール

※この作業スケジュールの日程はあくまで目安としてとらえ、最新の気象情報や各ほ場における生育を確認して作業する。

◎収穫開始日：7月20日（6月11日現在の収穫予想日）

時期	管理作業	ポイント
6月下旬以降 随時	修正摘果	<ul style="list-style-type: none"> ・硬核期終了後に実施する。 ・数回に分けて修正摘果を実施する。 ・果実肥大や果形に注意して実施する。
	夏季せん定	<ul style="list-style-type: none"> ・修正摘果に合わせて実施する。 ・樹冠内部や主枝、亜主枝の背面から発生した徒長枝を成葉4～5枚残してせん除する。 ・過度に実施すると日焼けなどの枝幹障害、新梢の二次伸長の原因になるので注意する。
7月6日頃まで	枝吊り・支柱立て	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫前14日頃までに実施する。 ・主枝、亜主枝の先端を下げないようにする。 ・日光が下枝まで届くように枝の間隔を空ける。
	反射シート敷設 （白系反射資材）	<ul style="list-style-type: none"> ・白系反射シートは収穫前14日頃までに敷設する。 ・収穫終了後は速やかに反射シートを撤去する。
7月6日頃	ぱりっと撥水ミニの外袋除袋	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫前14日頃に実施する。 ・果面の地色にやや緑色が残る時期が適切である。 ・作業が遅れないようにする。 ・有袋栽培では除袋後に修正摘果を実施する。
7月10日頃	SK-2の除袋	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫前10日頃に実施する。 ・作業が遅れないようにする。 ・有袋栽培では除袋後に修正摘果を実施する。
7月10日～ 13日頃まで	反射シート敷設 （シルバーシート）	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー系シートは収穫前7～10日頃までに敷設する。 ・収穫終了後は速やかに反射シートを撤去する。

令和3年度「川中島白桃」収穫前管理作業スケジュール

※この作業スケジュールの日程はあくまで目安としてとらえ、最新の気象情報や各ほ場における生育を確認して作業する。

◎収穫開始日：8月5日(6月11日現在の収穫予想日)

月 日	管理作業	ポイント
7月22日頃 まで	枝吊り・支柱立て	・収穫前14日頃までに実施する。 ・主枝、亜主枝の先端を下げないようにする。 ・下枝まで日光が届くようにする。
	反射シート敷設 (白系反射資材)	・白系反射シートは収穫前14日頃までに敷設する。 ・収穫終了後は速やかに反射シートを撤去する。
7月22日頃	ぱりっと撥水ミニの外袋除袋	・収穫前14日頃に実施する。 ・果面の地色にやや緑色が残る時期が適切である。 ・作業が遅れないようにする。 ・除袋後に修正摘果を実施する。
7月26日～ 7月29日頃 まで	反射シート敷設 (シルバーシート)	・シルバー系シートは収穫前7～10日頃までに敷設する。 ・収穫終了後は速やかに反射シートを撤去する。

◎果実に土が付着しないように収穫かごやコンテナの取り扱いには十分な注意を払いましょう！

◎近年増加している気象災害に備えるために、収入保険の加入を検討しましょう！

◎防除日誌への記載漏れの無いように農薬散布後は、忘れずに防除日誌へ記帳しましょう！

◎農薬散布の際は隣接する作物に注意し、飛散しないように注意しましょう！

◎適切な生産工程管理のためにGAPシートで確認しましょう！

◎農作業事故に注意して作業を進めましょう！

◎農作業中の熱中症に注意しましょう！